

ダム事業の名称	紀伊丹生川ダム
所在都道府県、水系、河川名	和歌山県 紀の川水系 (支流) 紀伊丹生川
事業者名	(国の直轄事業) 国土交通省近畿地方整備局
事業の概要・問題点・中止に至る経過・中止理由・その後の状況 (自由記述・図表等の貼り付け可)	

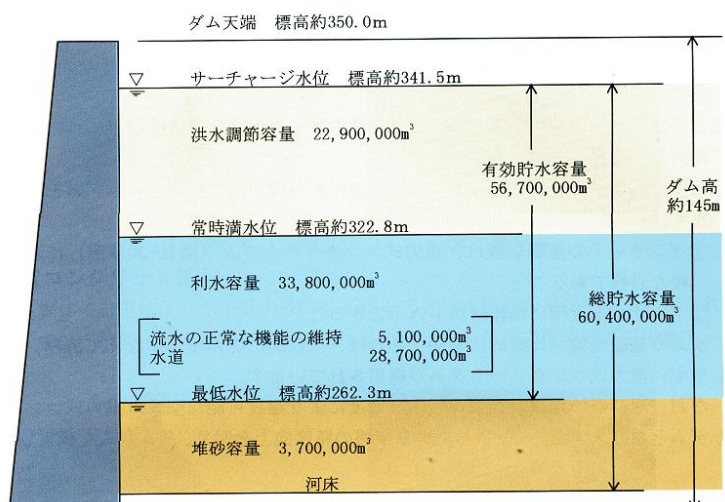
**★事業の概要 (規模、目的、大まかな変遷など)**

紀伊丹生川ダムは、治水と利水の両面からの多目的ダムとして、特に大阪府に分水するという目的を含めて計画され、

- 1979年 建設省近畿地方建設局 (当時) が予備調査開始、
- 1989年 実地調査を開始、
- 1999年 当該ダム建設事業審議委員会 (12回目) が「建設妥当」を答申、
- 2000年 地元の1市2町の9か所で「建設説明会」を開催、しかし、
- 同年 和歌山市が新規水源は不要となったとし、撤退表明、
- 2001年 大阪府が水需要の下方修正を行い、近畿地方整備局が1年後の見直しを約束、
- 2001年 新河川法に基づいて「紀の川流域委員会」が開催、
- 2002年5月16日 近畿地方整備局が当該ダムの建設中止を発表する。



紀伊丹生川ダムサイト計画地点



紀伊丹生川ダムの計画規模

**★事業の問題点 (必要性の評価、自然破壊、地域社会破壊など)**

もともと、紀の川の支流にすぎない小河川に堤高145メートル、総貯水容量6040万立方メートルもの巨大なダムを、国の直轄事業として建設するという事自体、不自然かつ不合理なことであり、

目的として治水のほかに大阪府に水を送るなどというのはとってつけたコジツケであった。

当該ダム予定地は「玉川峡」と呼ばれている和歌山県の指定名勝地で、また、県立自然公園の一部でもあり、奇岩や奇石からなる玉川48石を含む景勝地であり、大阪から近いこともあって釣り人やキャンプ客など観光客が多い。一方、玉川峡は世界遺産に指定された高野山への登り口にもあたり、いくつもの昔からの古道が残されている。さらに、クマタカや日本カモシカなどの貴重な動植物の宝庫でもあり、もし、計画通りの巨大ダムが出来れば、ダム工事やそれに付随する巨大な道路工事などによって失われる自然環境の被害がおびただしく予想された。

### ★中止に至る経過（構想段階から中止に至るまでの経過）

1998年 橋本市の住民有志がダム予定地を始めて見学、巨大な計画に驚き、その場で有志の発案により、「紀伊丹生川ダム建設を考える会」（準備会）がつけられた。

同年7月、当該ダム審主催の公聴会が橋本市で開催されたが、当日の意見陳述者17名のうち反対意見は3名にしかすぎなかったが、意見書原本を取り寄せたところ、約半数の住民が反対意見であったことが分かった。

同年10月25日水没予定地区の宿り青少年旅行村の河原で「紀伊丹生川ダム建設を考える会」の結成総会開催。ただちに、橋本市とダム審委員長あてへの署名活動を始める。これをきっかけに各地の自然保護団体の協力を得て各種のキャンペーン活動を展開する。

紀伊丹生川に漁業権をもっている玉川漁協（当時、組合員約700名）は、ダム建設の動きに対してなんらの意見表明をしていなかったが、ダム計画に反対する理事があり、「紀伊丹生川ダム建設を考える会」はこれらの方との連携を強め、かつ役員が漁協の組合員となり、さらには理事となる道を模索し、ついに理事の過半数をダム反対派で占めるに至り、

2001年2月の漁協総代会で漁協の新体制が成立、

2001年7月漁協理事会の名で「ダム建設反対決議」がなつたのであつた。

このころ、和歌山市のダム撤退宣言があり、続いて大阪府が水需要の下方修正をしたことや、長野県知事の「脱ダム宣言」もあつて一気にダム中止ムードが高まつたのであつた。

### ★中止理由（起業者が挙げる中止理由と、私たちが捉えている中止理由）

近畿地方整備局が直接の中止理由としたのは、2002年5月の近畿地方整備局長の発表では「和歌山市と大阪府の水需要の減少で、ダム建設によって得られるメリットが大幅に減り、事業の継続が困難となつた」と説明した。

紀伊丹生川ダム建設を考える会では水余り問題は当然の事実であり、それでも強引に国が建設を強行しなかつたのは、当会が中心となつて地元漁協と一体化した反対運動が粘り強くあり、さらに当時の世界的な潮流であつた「脱ダム」の流れを当時の近畿地方整備局の若手幹部が鋭敏に読み取つたからであろうと推測される。

### ★中止後の状況（当初目的についての現況、地域生活再建、河川・地域環境の現状、ダム等計画復活の動きの有無など）

2002年の当該ダム建設計画の中止後、「紀伊丹生川ダム建設を考える会」は、その年の総会で「玉川峡を守る会」と名前を変えてひき継ぎ、引き続いて、地域の自然環境を守り、地域社会の活性化のために存続して、今も活動を続けている。

国はダム中止後、地元自治体を通して迷惑料の意味をこめて高野町、橋本市、九度山町に活性対策費としてそれぞれの自治体に数億円を支出した。それらは、橋本市では宿り青少年施設の建て替えや、九度山町では水没地区予定地への道路工事などに使われているようである。

当地にはダム復活の動きは全くなく、当会がめざした自然環境はそのまま美しく、ほとんど維持存続されている。流域の荒れた山々についてはその一部を借り受けて毎月1回、里山保全作業を続けている。また、動植物の毎月わたる調査を通して変遷を調べる日本自然保護協会の「モニタリング1000里地調査」に選ばれて今も活動中である。

### ★中止獲得までに特に苦労したこと

川辺川の球磨川漁協に学んで、漁業権をもっている玉川漁協と連携すること、そのために役員が理事

となって、玉川漁協の中枢に進出し、それを生まれ変わらせることはたいへん根気のいることだったが、それが実現して良かったと思っている。

### ★中止獲得に至るまでの創意工夫

全国の脱ダムをめざす各地の市民団体から学びかつ連携するために各地へ出かけたが、2001年10月27日に「第17回全国水郷水都全国会議・紀の国大会」として高野山上で大会が実行団体となり、友好団体である大阪の脱ダムの市民団体が協力してくれたおかげで、全国から自然保護をめざす市民団体や個人を招いて開催できた。ダム中止はその半年後であったことから効果的だったと思われる。大会テーマは「流れる水は生きている」であり、当時の新聞各紙が大きく取り上げてくれた。

### ★中止獲得までに協力を得た団体とその内容

大阪自然環境保全協会（のちに「脱ダムネット関西」事務局となり、現在、大阪周辺の脱ダム市民団体のセンター的役割を果たしている）

槇尾川ダムの見直しを求める連絡会	武庫川を愛する会
安威川ダム反対市民の会	関西のダムと水道を考える会
長良川河口堰に反対する会大阪支部	公共事業をチェックするNGOの会
国土問題研究会	日本自然保護協会
水源連	

和歌山市民団体「ウインド」など和歌山県内の自然保護の市民団体

川辺川ダム反対のNGOなど多数の全国各地からの市民団体の協力を得た

### ★そのほか特に伝えたいこと

当会は、ダム中止までは、国や大阪府、和歌山県や地元自治体などと交渉し、各新聞社から情報を得て、当時は出来る限りの活動を展開したが、一党一派に属さず、あくまで非営利の市民NGOとして自主的な活動をしたと考えている。ダム建設中止後も規模は縮小したが、地域の自然環境を守ることに徹して今も仲間たちと地道な活動をしており、出来る範囲ながら、各地の運動の手助けをしたいものと考えている。

今後の当会をめざしたい更なる課題として、紀の川水系では、地滑りに悩む大滝ダムの補修の放棄と林業を守る若い労働力の確保。アユの自然遡上を実現するための、河口堰の撤去や開放を追及したいと考えている。

当時の団体名	紀伊丹生川ダム建設を考える会
現在の団体名	玉川峡を守る会
連絡担当者	事務局 木ノ本豊
住所（郵便番号から）	
電 話	
F A X	
電子メール	<a href="mailto:y.muben-0423k@nike.eonet.ne.jp">y.muben-0423k@nike.eonet.ne.jp</a>
ホームページ	<a href="http://www5a.biglobe.ne.jp/~kiinyu/">http://www5a.biglobe.ne.jp/~kiinyu/</a>